題材名 「 雅楽の魅力について考え、味わって鑑賞しよう 」　（第１学年　B鑑賞）

■本事例のポイント

１.生徒一人ひとりが考える雅楽の魅力についての根拠を、クラウド上で共有した音源や動画を自由に選択しながら考えられるようにした。
２.共有した音源や動画を用い他者と交流できるようにするなど、主体的に教材と向き合える環境をつくり、知覚・感受の活動を充実させた。

■題材の目標

リズムやテクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、我が国や郷土の伝統音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解し、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、雅楽のよさや美しさを味わって聴く。

■題材の指導計画（全３時間）

第１時

「我が国の伝統音楽の特徴について理解し、雅楽に興味、関心をもつ」
・雅楽の歴史を学び、オーケストラと比較し特徴を考える。
・唱歌を歌いながら、拍の特徴に気付く。

第２時

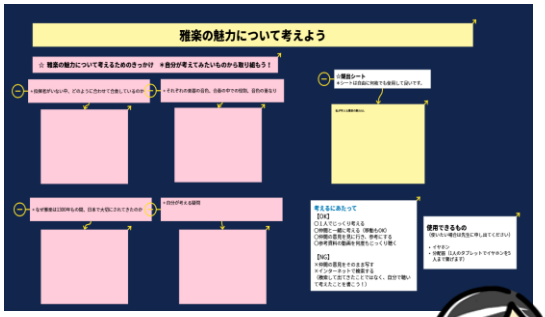
「雅楽の魅力について、リズムやテクスチュアを根拠に考え、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む」
・雅楽の魅力について、1人１台端末を用いて自分なりの言葉で表現する。

第３時

「他者の発表を聴き、雅楽の魅力について深める」
・他者の意見を聴きながら、雅楽の魅力について深める。
・改めて雅楽を聴き、魅力についてまとめ直す。

■本時の概要

「雅楽にどのような魅力があるか」
という課題に対し、知覚・感受したことを根拠に考えられるようにしました。



学習の流れを共有し、見通しがもてるようにしました。また、聴取教材の中に、小学校で既習の「越天楽今様」や、「君が代」を入れて、雅楽を身近に感じられるようにしました。

生徒が、魅力についてどの視点から考えるかを想定し、教材を複数用意することによって、生徒が自分のタイミングで選択して学習できるようにしました。

■学習調整をしている子供の姿

私が考える雅楽の魅力は、吹物がメロディーのような役割をしている。そして、周りの人たちの音を聴きながら合わせている。打物は規則正しく打っていて、全体のリズムをとっている。管絃は通常、打物が各１人、弾物が各２人、吹物が各３人の計１６人で演奏する。弾物と吹物は、前列に主奏者が座っており、後列の奏者は主奏者に合わせて演奏をしている。打物は規則正しくたたいていてリズムをとっている。

雅楽は楽器ごとに役割がありそうだと気付いたけど…。

私が考える雅楽の魅力は、指揮者がいなくても全員の音と息が合っているところです。管絃は通常、打物が各１人、弾物が各２人、吹物が各３人の計１６人で演奏しています。弾物と吹物は、前列に主奏者が座っており、後列の奏者は主奏者に合わせて演奏をしています。なので、指揮者がいなくても音や息を合わせることができるのです。オーケストラなどは指揮者に合わせて演奏しますが、指揮者がいない中でも音や息を合わせるのはすごく大変なことだと思いました。そしてとても技術が必要なことだと思うのですごいなと思いました。また、私は雅楽特有の音色の重なりも雅楽の魅力だと思います。それぞれの楽器で役割がきまっていて、まず最初に演奏するのは吹物で、メロディーのような役割をしています。次に演奏するのは打物で規則正しくたたいていて全体のリズムをとっています。次に演奏するのは弾物です。演奏するのに①吹物②打物③弾物と決まった順番があります。このようにそれぞれの楽器で役割が決まっていることで、あの独特で引き込まれるような美しい音色の重なりが生まれるのだと思います。最後に雅楽を聴いて、１３００年もの間大切にされてきて、よく考えて聴いてみると雅楽の魅力をたくさん発見することができて、だからこんなにも大切にされて来たんだなと納得することができました。雅楽は独特で引き込まれるような美しい音色の重なりや指揮者がいなくても全員の音と息が合っているなど、探せば探すほどすばらしい魅力を発見することができるとてもおもしろいものだなと思いました。なので、これらも大切にしていきたいと思いました。

繰り返し音楽を聴いたり、仲間と一緒に聴きながら交流することで、気付いたことから、雅楽の魅力について考えを深めていた。

私が考える雅楽の魅力は、

- ゆっくりなリズムで、音楽を奏でることで心を落ち着かせてくれること。
- 1000年以上受け継がれてきた歴史が詰まっていること。
- テンポがゆっくりで終わり方もはっきりしないのがまるで時が止まった かのように感じさせること。
- オーケストラは音で空間を満たすけど、雅楽は余白を大切にするからとても聞きやすいこと。
- 1000年もの間受け継がれてきたため、昔の人とおなじ音を共有共有できること。

自分でじっくり考えた後に、共有された仲間の意見を見て、考えをさらに深めていた。

まずは自分でじっくり。

子供が学び方を選択する場面の設定

私が考える雅楽の魅力は、

ゆっくりなリズムで、音楽を奏でることで心を落ち着かせてくれること。
1000年以上受け継がれてきた歴史が詰まっていること。
テンポがゆっくりで終わり方もはっきりしないのがまるで
時が止まった かのように感じさせること。
オーケストラは音で空間を満たすけど、雅楽は余白を大切にす
るからとても聞きやすいこと。
１000年もの間受け継がれてきたため、昔の人とおなじ音を共有
共有できること。
一つ一つの楽器の音の出し方が、より美しく見えるように工夫
されていて見た目も音も美しいこと。
オーケストラと違って指揮者がいないため演奏者どうしの
息遣いや手の動き、相互の配慮によって合奏を進めている
こと。また、配慮によって進めているとこが日本人らしさ
が現れていて素敵だなと思いました。

■指導と評価の工夫

①活動の様子をクラウド上で共有

＊生徒はクラウド上で他者の考えを参照し、必要に応じて直接交流をすることで、自分の考えを深めることができる。
＊教師はつまずいている生徒に支援ができる。

②クラウド上で教材を共有

＊音源や動画を、生徒自身が必要な時に見られるようにすることで、自分のペースで学習を進めることができ、知覚・感受の活動が充実する。
＊共有された教材を使い対話する際、必要に応じてイヤホンスプリッターを使用し、他者と一緒に聴くことで、音や音楽を伴った交流ができる。

■成果（○）と課題（▲）

○音源や動画、参考資料を必要な時に見られるようにした。また、イヤホンスプリッター等の教具を充実させ、一人でじっくり聴いたり、数人で演奏を聴きながら意見を共有したりすることで、学習調整を促すことができた。
▲雅楽の魅力について、根拠をもって自分なりに考えることが難しく、考えをまとめることに時間がかかった。知覚・感受したことを基に、音楽のよさや美しさを味わって聴くことが目的であり、調べ学習にならないような題材計画に配慮が必要である。

【活用したアプリや機能】ロイロノート